

- 本号の内容 中労委に署名提出……………p1
ドキュメンタリー映画『ここから』紹介記事……………p2

早期に実効性ある救済命令を

9/8 中労委に署名提出

●北海道から沖縄まで1377団体分

9月8日、中労委に団体署名を提出した。署名は、北海道から沖縄まで、各都道府県の平和フォーラムとその構成組織、また、自治労、国労、全自交労連など中央単産、そして、関西地域の支援運動組織などから寄せられた 1377 団体分。関西生コンを支援する会の共同代表、海渡雄一弁護士、内田雅敏弁護士、藤本泰成（平和フォーラム共同代表）、事務局長の勝島一博（同）をはじめ、田中直樹（平和フォーラム事務局長）らが参加した。（写真）



●大阪広域協組の責任を明確に

海渡雄一弁護士は、提出にあたって、「解雇、日々雇用組合員の就労打ち切り、団体交渉拒否など不当労働行為はもちろん個々の生コン業者がおこなったものだが、一連の事件は大阪広域協組の指示でひきおこされたものだ。その責任が明確になるような救済命令を出していただきたい」と強調した。また、「署名の趣旨は事件を担当する各部会の審査委員と事務局にしっかり伝えてほしい」と要請したところ、署名を受け取った総務調整官の添島氏は「伝えます」と返答した。

街宣活動に対する刑事弾圧を許さない集会（仮）

10月18日（火）18:30～ 連合会館203号会議室

「労働委員会命令を守れ」とアピールする街宣活動を「名誉毀損」で刑事告訴するという、前例のない弾圧事件がおきようとしている。

刑事告訴したのは、ストライキで不当逮捕された組合員に弁明の機会も与えず団交も拒否したまま懲戒解雇したナニワ生コン。大阪府労働委員会が懲戒解雇取り消し、原職復帰、団交応諾などの組合勝利命令を出したことから、関生支部が「労委命令守れ」の街宣活動を自治体やゼネコンの周辺でおこなった。その宣伝カーに貼付した横断幕に、「労働者イジメをやめろ」の文言と不当労働行為企業の社長の顔写真が入っていたことを理由に 10 人の組合員を刑事告訴したもの。当然といえば当然だが、2021 年 12 月、嫌疑不十分で不起訴が確定した。

ところが、その後、大阪広域協組顧問弁護団トップのヤメ検弁護士が検察審査会に不服申し立てして、大阪第四検察審査会が今年 7 月 14 日付で「不起訴不当」の議決をしていたことが最近わかった。事実経過と問題点を報告する集会を企画した。（詳細は追って）

ここから～「関西生コン事件」と私たち

観る



監督：土屋トカチ
制作：全日本建設運輸連等労働組合 / 2022年 / 約80分（10月完成予定）
自主上映問い合わせ先：sankansai@gmail.com
※上映情報は関西生コンを支援する会のウェブページに随時掲載予定
<https://www.sankansai.org/>

ハンドル片手に精一杯誠実に生きる

生コン業界と労働組合、どちらも勇社会のイメージがないだろうか？ それを払拭するのが、この映画だ（筆者が観たのは60分のパイロット版）。

主人公の松尾聖子さんは3人の娘のシングルマザー、仕事を探すのは大変だ。生活保護も受けた末に彼女がたどり着いたのは生コンクリートの4人乗ミキサー車の運転手だった。「暑いし日に焼けるし、生理の時はキツイ」。それでも初任給は30万円近く。しかも生コンは90分以内に建設現場に運ばないと固まってしまつため、短距離運転のみ。何より、この職場は聖子さんをはじめ女性にとって働きやすかった。

「連帯ユニオン」は、生コン労働者のための組合だ。性別による格差を許さない。

労働者の生活を守るだけでなく、1995年の阪神淡路大震災でコンクリートの品質劣化が問題になると、コンプライアンス活動も活発に行なう。「会社では社長が偉いものだと思っていたけど、経営者と労働者が対等に話をして物事を決める姿に惹かれた」という聖子さん。「連帯」に入ることから正規職員になり、その翌日から生理休暇を取ることができた。

しかし、そんな組合に対する風当たりは強く、2018年以降、関西支部の組合員が80名以上逮捕、起訴される。「こんなに多くの逮捕者を出さなくて、組合のやり方が過激なのは」と思う人は、ぜひこの映画を観て欲しい。憲法で保障された労働組合の行為が犯罪として扱われ、保釈の条件

は「組合員同士で連絡を取り合うことは一切禁止」という無茶苦茶なもの。組合つぶし以外の何物でもないことがよくわかる。

解雇を恐れて組合を辞める人も増えた。保育園に提出する就労証明書を会社に頼んだだけで13.5日拘留された男性組合員は、理庄より仲間が組合を去ったことの方が辛かったと涙を浮かべる。

聖子さんの再婚相手も、解雇を恐れて組合を辞めてしまう。しかし、聖子さんに辞める選択はなかった。「子どもを育てることができたのは、組合のおかげだから」と笑顔を見せるのだ。

この映画に描かれているのは、組織に従属する女性ではなく、精一杯誠実に生きようとする女性の等身大の姿だ。女性がいてこそ「連帯ユニオン」。ここから希望が見えてくる。

（堀切さとみ）